



カチプール・メグナ・グムティ第二橋建設及び既存橋改修事業

株式会社大林組 アジア支店・ダッカ3橋JV工事事務所 工事長

川口 康

Ko Kawaguchi



2018年10月時点のカチプール橋進捗状況、全景



2018年10月時点のメグナ橋進捗状況、全景



2018年10月時点のグムティ橋進捗状況、全景

既存橋の傍らおよび直下での鋼管矢板井筒施工状況(メグナ橋)



世界で活躍する日本の建設企業



プロジェクト位置図

はじめに

バングラデシュ、その首都ダッカと聞いて皆さんは何を思い浮かべるだろうか。二〇一六年七月一日、日本人を含む多くの外国人が犠牲となったダッカ市内レストラン襲撃テロ事件は記憶に新しい。既に工事を開始し当地で生活していた我々にとっても非常に衝撃的な事件であった。ここでは、根強い親日派である同国の紹介、事業遂行中のテロ事件という困難を克服して建設を続けているカチプール・メグナ・グムティの三橋工事の概要と今後の展望について述べる。

バングラデシュ人民共和国の紹介

同国は一九七一年にパキスタンから独立した。当時、日本が欧米諸国に先駆けて独立を承認したこともあり強固な親日国となり、その関係は今でも続いている。継続的にわが国の政府開発援助(ODA)が実施され同国の発展に寄与してきた。九〇年代までは無償協力案件が主であったが、その後、有償案件も実施されるようになった。これは同国の確実な発展の証でもあり、事実、この一〇年ほどは年六%を超える経済成長を遂げ、二〇一八年三月には後発開発途上国の卒業宣言を行うまでになった。

近年の経済発展の一方で、急増する輸送量に

道路網整備が追い付かず、交通渋滞が同国でも深刻な問題となっている。当該工事は、首都ダッカと第二の都市チッタゴンを結ぶ国道一号線上に位置するが、車線が狭い既存橋部分がボトルネックとなっており慢性的な渋滞が発生している。そのため三橋の増設が急務となり、二〇一五年に大林組JVが受注した。

工事概要

当該工事は二〇一六年一月に着工し、工期は四年、現在も進行中である。各既存橋と並行に新橋を建設する工事で、基礎には鋼管矢板井筒上部鋼橋部には細幅箱桁という日本の技術が採用されている。また既存橋の改修工事も含まれており、完成後二十五年〜四十年経った三橋(弊社施工)を、更に向こう数十年利用するための事業である。

着工から六カ月後、前述のテロ事件が発生し日本人技術者が犠牲になった。工事を本格的に始めようとした矢先のこと、安全警備体制を一から見直さざるを得ないという想定外の事態に直面した。

多くの日系協力業者の参画が不可欠ななか、安全確保のため一時工事を中断すべきという議論もあったが、施主、同国政府、警察、日本国大使館、JICAから関係者の積極的かつ真摯な

協力を受け、警備増強の計画・整備を三カ月強の短期間で行い、予定よりも遅れたものの本工事を開始することができた。最盛期には協力業者を含め一五〇人を超える日本人が、この警備体制のなか工事を進めた。

終わりに

同国政府や警察の継続した協力もあり、現在まで工事は順調に進んでいる。当該工事での安

全対策は後のODA事業のモデルになっていると聞く。このような事態を想定し、責任所在の明確化や各国の事情に沿った適切な対策などを、現地政府、日本政府とともに我々建設業者も主体となって確立していくことが、ODAをはじめとした海外での事業成功への課題と考える。最後に、悲劇的なテロ事件で亡くなられた日本人技術者に、同時期に建設工事に携わっていた技術者として、心から哀悼の意を捧げたい。